



【6月6日（日）第46回全国学童保育指導員学校 西日本・愛知会場開催】

コロナウィルス感染拡大防止の為、YouTubeとZoomを使用したオンライン開催になりました。
今回参加された指導員の感想を含めた提出レポートを2号に亘りご紹介致します。
また、その他の常勤専任指導員と非常勤指導員のレポートは当会ホームページに掲載しておりますのでそちらもぜひご覧ください。

【西村 巧（つくしクラブ 常勤専任指導員）】

●参加講座テーマ・しょうがいのある子どもの理解をふかめともにそだちあう
今回初のひとり指導員学校。ひとり職場でさみしくも気づかい無用の指導員学校。
分科会は「しょうがいのある子どもの理解をふかめともにそだちあう」。
今までも色々な専門の先生方から「しょうがい」についての講義を受けたが、普段の生活の中で健常者との関りが大多数の中、忘れがちになりつつある「しょうがい」児への対応。
それを再度思い出すためにも機会を見て講義を受けるようにしたいとの思いから今回この分科会を選んだ。
講義の始めは学童保育におけるしょうがい児の受け入れ実態や、実際受け入れている学童保育所の環境の話。
これはしょうがい児に限らず、また今回の講師の先生以外にも限らず、なかなか声を大にしていう事もあまりないのだが、みんな疑問に思っているであろう事柄。
保育園児の一人当たりの床面積より心身ともに成長する学童期の一人当たりの床面積が減るという不思議。
そんな不思議も織り交ぜながら講義は進む。
しかし毎回色々な講師の方の話を聞いていて思う事は「しょうがい」という診断が出ている、出ていないにせよ、私たち人間はみんな似た特性を持っている、という事。
例えば、「こだわりが強い」、というのも「しょうがい」の特性と捉えがちだがそれぞれ万人「こだわり」はある。「これがあれば心が安定する」というアイテム。
スヌーピーに出てくるライナスの毛布？
それがないとパニックを引き起こすアイテム。
今回の分科会では途中、昔のビデオを視聴する時間があり、その映像に映るしょうがい児のアイテムは紐（ひも）だったり箒（ほうき）だったり。
それを取り上げられると例外なくパニックとなる。なるほど、でもそんな状況はよく見る。
しかし現代、実はそれと似たような症状は起こっているのでは、と思う。
そのアイテムは「携帯電話」。今の人間は実はこれを取られると不安で不安で仕方がなくなる。下手すると、映像の彼ら以上にパニックを引き起こす輩も出てくるかもしれない。
そんな事を考えると、実は「しょうがい」というものは特に「別次元の人種の総称」ではなく、「隣人のちょっとこだわりの強い健常者」なのかもしれない、と思った。
「自分もそんなことあるよな」との考えを「隣人のちょっとこだわりの強い健常者」に向けた時、お互いの落としどころを模索するスキルを僕ら指導員は持たなくてはならないと思う。
要は「しょうがいを理解をすることで己の意識を変える」という事。
これは講師もおっしゃっていたことだし、自分自身も大事なキーワードだと思う。
なかなか日常の生活の中で忘れがちな「キーワード」だが、実はこれは「しょうがい児」に限らず、学童保育所に通所する児童、みんなに通ずることがあるように思う。
そういった奥深い講義を聞きながら最後のまとめとしては、自分自身もまだまだ発展途上と認識し、今回再度思い出させてくれたキーワードを意識して今後の保育に役立たせていきたいと思った。

【寺田 玲子（あおぞらクラブ 非常勤指導員）】

●参加講座テーマ・子どもの理解とはたらきかけ

よく子どもに注意するとき、「自分がやられたらどんな気持ちになる？嫌だよな？」などという声掛けをしますが、6～8歳の子どもは、「相手の立場になって考える」ということはまだ難しく、それがまだできていなくても心配する必要はないことが分かりました。子ども本人が「わがまま」や「自己中心的な行動」で起こる、人とのトラブルを体験し、少しずつ身に付いていくものなのだとのことでした。しかし、その時に周りの大人が「どうしてそんなことをしたのかな？こんな気持ちだったのかな？」とまずは本人の気持ちを受け止めてあげるといふサポートが大切になってくるとのことでした。その場で目にしたことだけで判断をして、頭ごなしに注意するのではなく、子どもの気持ちを丁寧に聞いていくことを心がけようと思いました。

また、全体会でも触れて頂いた「子どもの最善の利益」についてもお話をしていただきました。「子どもの最善の利益」とは、大人が勝手に判断し、強要するものではなく、大人と子どもと一緒に話し合い考えていくものなのだと分かりました。講師の河村先生の学童保育所では、スキー合宿でトレーディングカードを持って行ってはいけないというルールに対し、子どもたちから反論が挙がったため、ルールを決めた保護者の方に直接意見をしたらどうだろうという提案をしたそうです。子どもたちが作成した意見書も見せていただきました。たとえ、ルールで決まったことがあったとしても、子どもから疑問や反論が挙がったのであれば耳を傾け、ルールの意図を説明したり、それでも納得が出来ないようであれば一緒に話し合っていくべきなのだと思います。相手が大人であっても子どもであっても、1人の人間として尊重し、一緒に生活をしていくことが大切だと感じました。

【磯谷 舞美（あそびばクラブ 非常勤指導員）】

●参加講座テーマ・子どもの権利の観点から見る学童保育の生活

今回の講義を受け、「なるほど」と思ったことや「そうかあ…」と思ったことがいくつかありました。まず午前の講義。学童ほいく誌を読んでいなかったもので、きちんと読んで運営のヒントにつなげていきたいと思いました。「子どもの権利を守る」ことと仰っていたので日々の保育をする時心掛けようと思いました。「子どもを人として尊重する」「子は支配の対象ではない」と聞いて、「なるほど」と思ったけれど、果たして自分は子どもにどう接しているのかと気になりました。一日一日の保育を大切に子どもに接してあげたいと思いました。

午後の講義。「子どもの権利」や「子どもの意見表明」という言葉が多くきかれた気がしました。私は「子どもの意見」を全然きいていなかったもので、「子どもの意見」に耳を傾けていきたいと思ったし、しなければならぬと思いました。

間宮先生の息子さんの受験のお話をきいて、気分が下がっていても「学童には行きたい」と思われる学童になったら良いなとのお話をきいて思いました。気分が下がっていても行きたい学童とはどんなだろうと想像してみました。全然分からなかったもので、日々の保育の中で探していきたいと思いました。

ありがとうございました。

【市川 裕美（風の子クラブ 非常勤指導員）】

●参加講座テーマ・子どもの発達をまなぶ

〈全体会にて〉

コルチャック先生の「子どもの明日にではなく、まず今日という日に責任を持つ」という言葉を聞き、将来のことを気にしてしまうことが多くありますが、まずは子どもにとって今日が楽しくて満足できるものになるように働きかけていきたいと思いました。そのためにも、子ども自身が好きな事、やりたい事を選択できるようにいろいろな体験を準備していきたいと思いました。

〈5講座 子ども発達をまなぶにて〉

・子どもに対して「ほめる」「叱る」をしっかりとできるようにしていきたいと思いました。その際に、子どもは悪い言葉は教えなくても覚えていくが、良い言葉はストックがないので、どんどん教えることが大切だと聞き、いろいろなほめ言葉を伝えていきたいと思いました。

・ハッピーコミュニケーションについて聞き、似た内容でも言い方次第で、受けとる側の気持ちが変わることが分かりました。促したい行動を言葉にし、何をしたかったのかを聞き、子どものペースに任せるようにしていきたいと思いました。